

【授業の全体計画】 教室はA V教室です。

第1講	9/29	博物館の構想と計画、提出課題「私が考えたミュージアム」の説明
第2講	10/13	博物館の定義と学芸員の倫理規定、博物館法の改正
第3講	10/20	動物園水族館の法令と飼育基準
第4講	10/27	建築のバリアフリーとユニバーサルデザイン
第5講	11/9	見学：オホーツク流水館【水3博物館実習の時間に実施】
第6講	11/10	オホーツク流水館の設立と経営
第7講	11/17	予算と財源、日本の博物館総合調査1
第8講	11/24	資料購入費と研究費、日本の博物館総合調査2
第9講	12/1	展示の進行管理1
第10講	12/8	展示の進行管理2
第11講	12/14	博物館の組織と運営
第12講	12/15	水族館経営の実際：標津サーモン科学館館長講話
第13講	12/22	学芸員の労働実態と任用の将来、課題のQ&A
第14講	【遠隔授業】	博物館の評価と改善1「地域博物館への提言」
第15講	【遠隔授業】	博物館の評価と改善2「ミュージアムが都市を再生する」

休講：10/6、1/12。

第1講 博物館の構想と計画【課題の説明】

参考URL *おすすめ資料

北海道立北方民族博物館「博物館紹介」趣旨、沿革、施設 <http://hoppohm.org/museum/index.htm>

北海道博物館「北海道博物館について」 <http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/about/>

葛西臨海水族園の更新に向けた基本構想* 1.5 MB <https://www.kensetsu.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/park/zoo/kouen0063.html>

新琵琶湖博物館創造基本計画* 2.2 MB <https://www.biwahaku.jp/uploads/h2604lbmvision.pdf>

新琵琶湖博物館創造第1期実施設計（案）概要版 <https://www.pref.shiga.lg.jp/file/attachment/1045350.pdf>

新琵琶湖博物館創造第2期実施設計（案）概要版 https://www.shigaken-gikai.jp/voices/GikaiDoc/attach/Nittei/Nt7541_03-2.pdf

新たな「人と自然の博物館基本計画」 1.1 MB <https://www.hitohaku.jp/infomation/organization/kihonkeikaku-1.pdf>

高知県立足摺海洋館基本計画* 10.3 MB

https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/020601/files/2015100200197/file_20151025132914_1.pdf

石垣市水族館建設推進基本計画* 23 MB https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/material/files/group/9/suizokukan_kihonkeikaku.pdf

石垣市水族館建設推進基本構想* 13.8 MB https://www.city.ishigaki.okinawa.jp/material/files/group/9/suizokukan_kousou.pdf

1. 博物館ができるまで

建築や展示の進行状況と学芸員配置との関係が、施設の使い勝手に反映される。設置者と現場との力関係も

1) 北海道開拓記念館＝2015年から北海道博物館

年	道庁内	民間協議	資料収集	博物館・展示	<u>学芸員・職員</u>
1962	開道百年記念事業準備委員会設置				
1963	北海道立博物館建設促進期成会結成				
	北海道開拓記念物等調査開始				
	北海道博物館建設促進委員会				
1965	開道百年記念事業協議会（道内各種団体）				
1966	北海道百年記念事業実施方針発表				
	北海道百年記念事業準備室設置				
	開拓記念館構想協議（準備室） <u>学芸員少数配置</u>				
	展示計画の研究（北海道大学に委託）				
	開拓記念館資料収集計画作成				
1967	北海道開拓記念館開設協議会設置				
	展示計画の研究報告書				
	構想決定（協議会）				
1967	展示計画の検討（元市立函館博物館館長に依頼）				
1968	資料収集基本方針（3月）				
	「寄贈を原則」と定める、各地に「資料調査協力員」				
	仮収蔵庫使用				
	展示構想試案作成（4月）				
	開道百年記念事業（昭和43）				
1969	基本設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	<u>学芸員の増員（4月）</u>				
	常設展示計画案（10月）				
	業務計画案（11月）				
1970	実施設計（3月：北海道デザイン研究所）				
	学芸員26名				
	展示工事発注（9月）				
1971	常設展示完成（3月）				
	開館（4月14日）				
1992	常設展示の改訂（4月16日公開）				
2015	北海道博物館として再出発				
	開拓と入殖者の消去				
	組織改組：北海道立アイヌ民族文化研究センターを併合				

学芸員の本格的採用 から開館まで2年

出典：北海道開拓記念館三〇周年記念誌編集委員会（2002）北海道開拓記念館三〇周年記念誌。
北海道博物館（2017）北海道博物館要覧2015。

2. 北海道立北方民族博物館

年	道庁内	網走市・民間	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1970			北方民族資料館構想（網走市）		
1971			網走市が知事に道立北方民族資料館設置を要望		
1982			博物館設置調査費予算化		
1984			「行政主導」	北方民族博物館計画専門委員会開始	
1985				「北方博物館の整備の在り方について」	
1986				「北方民族博物館の設置構想について」	
			北方民族文化シンポジウム開始		
1988				基本計画策定（3月）	
				基本設計（11月）	
1989				実施設計（3月）	
			北方民族館係設置（4月）		学芸員採用
			北欧・北米で資料収集（以降毎年世界各地で資料収集＝購入）		
				建設着工	学芸員採用から開館 まで1年10か月
1990				建設竣工（3月）	
			網走市より資料寄贈		
			道立博物館条例制定（3月、5月施行）	展示工事着工（5月）	
1991				展示工事竣工（1月）、開館（2月10日）	
			登録博物館認可（3月）		

出典：北海道立北方民族博物館・北方文化振興協会（2002）北海道立北方民族博物館設立10周年記念誌。

「学芸員主導」

3. 足寄動物化石博物館

年	町教委	民間団体	資料収集	博物館・展示	学芸員・職員
1976			束柱類第1標本（アショロア）発見		
1980			束柱類第2標本（ベヘモトプス）発見		
1984			化石作業所の開設	アメリカとの資料交換	
1989			「足寄動物化石群研究の記録」発行		
1991					研究員（学芸員）採用
1993				基本構想	
1994			博物館係設置	基本設計	学芸員採用から開館 まで7年
1995			アショロア北大から移管	用地取得／実施設計	
1996				着工	
1997			条例策定		
1998				竣工／開館	
2010			NPO法人あしよろの化石が指定管理者として運営開始		学芸員1名増員

出典：足寄動物化石博物館「施設概要」 <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp/info/institution.html>

宇仁義和. 2011. 地方博物館の評論とその教材化. 全博協研究紀要, 13: 23-35. http://nodaiweb.university.jp/muse/unisan/files/uni2011_chihaku.pdf

足寄動物化石博物館カルテ

資料・研究	地域アピール	計画	職員・運営	
			1975	
第1標本（アショロア）発見			1976	
地域の宝の発掘		使命 収蔵資料は足寄動物群と呼ばれる化石である。世界的に貴重なデスマスチルスや原始的な鯨類を含み、海生哺乳類の進化研究では第一級の資料とされる。	キーワード ・全体構想 ・展示 化石工場 展示と建築の一体化 1) ジオラマと造作の排除 2) すべてが移動可能な展示台 3) 職員で更新可能なグラフィック 基本構想：足寄動物化石博物館の理念→館長のひとこと 1) 足寄動物化石群を保管・管理すること →保管・管理だけなら倉庫があればいい 2) 足寄動物化石群を継続的に収集し、研究すること →収集、研究なら研究所があればいい 3) 足寄動物化石群の標本・研究成果を公開すること →博物館を作るからには、成果の公開が必要で 4) 足寄動物化石群を町の財産として活用すること →さらには、化石を町の財産として活用していきたい	
第2標本（ベヘモトプス）発見				1977
鯨類化石発見				1978
				1979
				1980
第1・2標本が束柱類と判明	第1回デスマスチルス・シンポ	化石作業所開設		1981
研究者の協力	地域への普及			1982
	デスマシンポ報告集刊行			1983
アメリカとの資料交換	ロサンゼルス自然史博物館学芸員来町			1984
	〃			1985
	鯨類化石の名称報告（記載は95年）		1986	
	動物化石講演会		1987	
第1標本北大から足寄町へ移管			1988	
	第2回デスマスチルス・シンポ		1989	
レプリカの活用			1990	
			1991	
			1992	
			1993	
			1994	
			1995	
			1996	
			1997	
			1998	
			1999	
			2000	
最古の鯨のレプリカ交換		アショロア復元完成公開	2001	
			2002	
最古のアカボウクジラ確認			2003	
			2004	
流水で座礁したシャチの収集			2005	
			2006	
			2007	
継続的な資料収集	地域に技術定着		2008	
	展示への反映	町内製作シャチ骨格展示	2009	
			2010	
			現館長退職	
			NPOによる意欲的な運営	
			NPO法人による運営、学芸員3名体制の実現	

確認キー 7547

1712まで休憩

提出課題：私が考えたミュージアム：評価の配分は本課題100%です。

自分が考えたミュージアムの「基本構想」「基本計画」「展示計画」を記述し、「博物館敷地全体平面図」「博物館本体平面図（2階建て以上ならそれぞれの）」「常設展示室平面図」「最重要資料コーナーのパース」を描き、「グラフィック」数点を作成する。実在する場所での設置とし、その実現可能性は問わない。

既存施設のなかに設置するのはよいが、実在する博物館の改善策は不可。

様式

プリントアウト：A4判両面印刷、紙はコピー用紙、計5枚

手書き：A4判、110kg紙、計4枚。用紙は配付する

上記をクリアフォルダに入れて提出、表紙禁止、ホチキス止め不可

課題1-2：コンピュータ作成、1行40字でモノクロ印刷。フォント：明朝または細ゴシック10-11ポイント

課題3：手書き、色数自由、画材は鉛筆シャーペン以外（色鉛筆は可）、修正液使用可

課題4：コンピュータ作成、実際に展示に使用することを想定したデザイン・レイアウト

*学科・学籍番号・氏名をすべての提出紙の表面最上部に記入のこと（すべて手書き可）

提出期限 2023年1月30日（水） 研究室レポート入れ

評価のポイント 様式、内容、美しさ、独創性

課題内容

1. 基本構想と基本計画 A4判1枚両面印刷

基本構想：表面

- 1) ミュージアムの名称（日本語および英語）各1行
- 2) 設置目的 200字前後 ※その博物館の不変の目的
- 3) 資料収集の方針 400字前後

*基本構想では具体的な場所に言及しない

基本計画：裏面

- 4) 設置者と運営者、それぞれの法人格の種別 1行
- 5) 立地 周辺環境の概要 200字前後
- 6) 建築 本体と敷地の概要 400字前後
- 7) 職員 全体の職員配置と人数 組織図
- 8) 2020年代前半における使命 80字前後

*基本計画は土地建物職員を特定する。

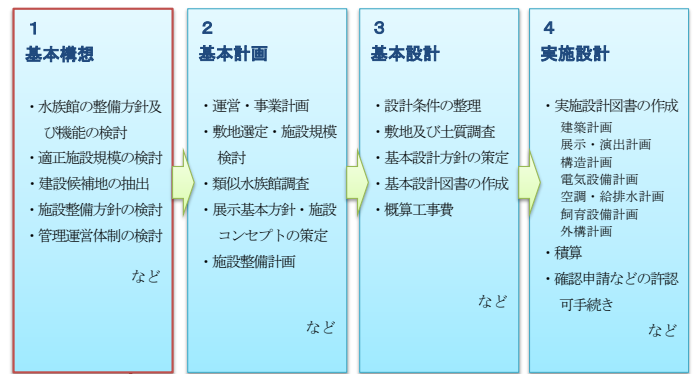
職員数も概数で規定する。図面では「基本設計」

2. 展示計画 A4判1枚両面印刷

- 1) 常設展示室の役割 箇条書き不可 200字前後
 - 2) 展示の方針 構成や内容ではない、2-4項目
- うたい文句+本文 400字前後

高知県立足摺海洋館基本計画

石垣市水族館建設推進基本構想



第3章 集客想定と収支バランスの検証、建設条件整理

4) 敷地の選定

新しい水族館の敷地選定にあたり、現在地の他にA-D用地について、コスト、ロケーションなど多角的に検証を行いました。
 竜申湾との連携がとりやすいこと、立地条件、利便性、取水排水の確保などから、現在地を選定しました。

候補地	現在地	A	B	C	D
所有者	高知県	高知県観光開発公社	国(官有地)	高知県	土佐清水市
敷地面積(m ²)	11,670.86	6,300.00	12,200.00	7,650.00	6,100
用地取得経費	県有地のため必要なし	9,290円×6,300m ² =58,527千円	9,290円×12,200m ² =113,338千円	県有地のため必要なし	9,290円×6,100m ² =56,669千円
ロケーション(目の前の海との一体感)	3階レベルから眺望が確保できる。	地上レベルで海への眺望が確保できる。	地上レベルで海への眺望が確保できる。	海とは国道を隔てているため、海への眺望なし。	漁港に面するため、親水空間や海への眺望の確保が難しい。
観客・観導アクセス	国道沿いであるため、施設が視認しやすく、誘客・誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	国道沿いであるため、誘客・誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	現在地を駐車場として利用するのであれば、国道沿いのため、誘客・誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	国道沿いであるため、視認しやすく、誘客・誘導が容易である。車のアクセスはしやすい。	国道からの視認性が低く、誘客のPR効果が薄い。車のアクセス良好。切り下げが狭く大型バスが回転しにくい。

【図表 3-27 候補地】

3) 常設展示室の構成

展示室>展示テーマ>展示コーナー>展示資料という階層構造
 テーマ名(3-6個、番号付ける)とその概要(各40-80字前後)
 コーナー名(各テーマに2-4個)とその概要(各40-80字前後)
 おもな展示資料(資料名と種別、各コーナーに1-5種類を明記)
 テーマごとの想定観覧時間と合計観覧時間を記入すること

3. 図面 A4判1枚片面縦横自由(手書き)×4

1) 博物館敷地全体の平面図

附属施設や設備を明記のこと

立地周辺施設との関係を簡潔に書き入れる

2) 博物館本体の平面図

出入口と空間の区割りを明記すること

公開区域と非公開区域の線引きが明確であること

観客動線と職員動線を記入すること **資料動線を書き込むこと可**

資料搬入口を明記のこと

石垣市水族館建設推進基本計画

3) 常設展示室の平面図

新琵琶湖博物館創造基本計画

出入口を明記すること

ケース・ステージと通路を判別可能にすること

テーマ名(番号も)とコーナー名を記入して範囲を示すこと

最重要資料の展示場所を矢印で示すこと

4) 最重要資料の展示コーナーのパス

補足資料を含め、それぞれの資料名と種別を明記する

資料や展示、補助具などの説明を簡潔に書き入れること

4. グラフィック A4判1枚片面縦横自由×3

※拡大印刷すれば実際に使用可能なフォント、レイアウト、

デザインとすること。文体にも配慮。文字だけでもよい

1) 館長あいさつ

タイトル: 1行、本文: 200字前後

博物館の設置目的や使命の内容を含み、

館長あるいは設置者の意向を反映させる内容

2020年から向こう10年間程度の使命を中心に記すこと

2) 常設展示室の概要

タイトル: 1行、本文: 400字前後

学芸員の収集努力や資料選定意図が伝わる内容のこと

3) 最重要資料の解説パネル

タイトル: 1行 資料名・資料種別1-4行 本文: 200-800字

3. 展示基本方針

(1) 展示基本方針の検討

基本構想で検討した展示基本方針「八重山諸島の自然環境の体験的ストーリー」をベースとしてモデル地に適した展示展開ストーリーを検討する。

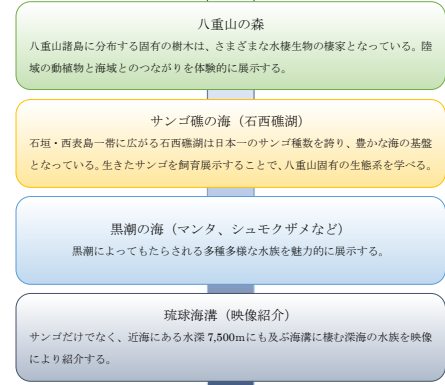
■ 展示基本方針

- ・八重山の森、マングローブ、イノ、サンゴ礁の海、黒潮の海、深海(琉球海溝)などから展示構成され、そこに生息する動植物・水族の生態と環境を展示する。
- ・研修室を設け、五感を通して自己の想像力が高められる、参加体験型の展示計画とする。
- ・野外体験ツアー、海人(ウミンチュ)体験、地域イベント情報提供など観光ネットワークに留意した展示計画とする。

課題の展示方針に相当

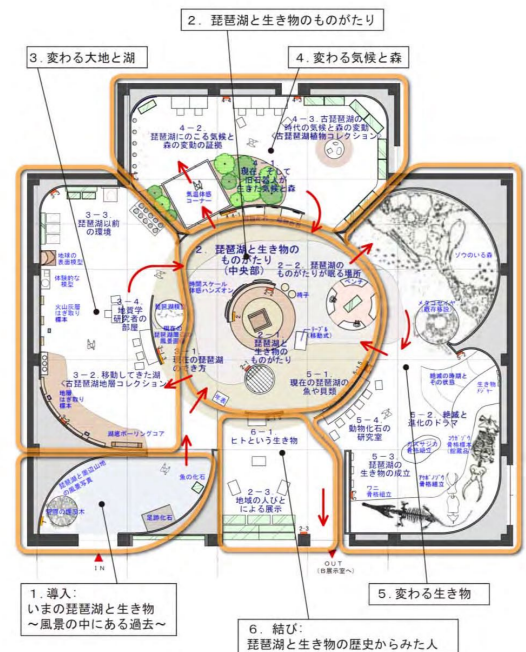
課題の展示テーマに相当

ENTER



EXIT

【A展示室ゾーニングイメージ図】



国立科学博物館企画展「標本づくりの技」2018